

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：35305

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520216

研究課題名（和文） 『源氏物語』 『枕草子』 における本文の変遷とその受容に関する研究

研究課題名（英文） Research on changes and acceptance of the text in the "Tale of Genji" and the "Pillow Book"

研究代表者

新美哲彦 (NIIMI AKIHIKO)

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：90390492

研究成果の概要（和文）：

『源氏物語』本文・注釈についての調査・資料の整備・研究を中心に行った。

研究は、本文の変遷とその受容という観点から、手法も考察対象も多岐に渡った。平成 22 年度は、『源氏物語』の絵画化・マンガ化に注目し、ブラジルにおいて、発表・講演を行い、論文文化した。平成 23 年度は、『正宗敦夫収集善本叢書』の刊行を継続するとともに、『奥入』の調査に着手、論文 2 本を公刊した。平成 24 年度は、『正宗敦夫収集善本叢書』の刊行を継続するとともに、『奥入』の調査を継続。さらに『源氏物語』古注釈の、時代における解釈の変遷を捉えた論考を執筆した。なお、『枕草子』については前田家本『枕草子』の注釈を進めたものの、刊行には至らなかった。

研究成果の概要（英文）：

I did investigation about the "Tale of Genji" text and notes, and maintenance and research of acceptance data.

Research was done from a viewpoint of changes and its acceptance of the text.

It went also across the technique and the candidate for consideration variably. I took notice of picturization and cartooning of the "Tale of Genji" in A.D. 2010.

And in Brazil, I performed the announcement about it, and the lecture.

Then, I wrote the paper about picturization and cartooning of the "Tale of Genji." I continued publication of "MASAMUNE Atsuo collection Zenpon series" in A.D. 2011.

Moreover, I newly started investigation of the "OKUIRI" which is old notes of the "Tale of Genji." And I wrote two papers about it.

I continued publication of "MASAMUNE Atsuo collection Zenpon series" also in A.D. 2012.

Moreover, I also continued investigation "OKUIRI" which is old notes of the "Tale of Genji."

Furthermore, I wrote the paper which caught the change of the interpretation in the time about "Tale of Genji" old notes.

In addition, about the "Pillow Book", although I advanced notes of the MAEDAKEBON "Pillow Book", I did not result in publication.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：古代文学、源氏物語

1. 研究開始当初の背景

『源氏物語』諸本の再整理に加え、古注釈書類などの『源氏物語』享受資料の発掘と整理を目指した。また『枕草子』の注釈研究が三巻本のみ偏っている現状から、本文および享受の研究をも目指した。研究開始当初の学術的背景について以下に述べる。

(1) 『源氏物語』諸本に関する研究

池田亀鑑の『源氏物語大成』（1956）完成から半世紀余り経つ。『源氏物語大成』は偉大な業績ではあるが、拙稿「揺らぐ「青表紙本／青表紙本系」」（『国語と国文学』83-10 2006年10月、『源氏物語の受容と生成』武蔵野書院 2008年9月再録）で明らかにした通り、「青表紙本系」「河内本系」「別本」という現在の諸本分類・呼称はさまざまな問題を有している。加うるに、『源氏物語大成』所収で、現在、所在不明の諸本もある一方、新たに報告された注目すべき諸本も多く再整理の必要性が高まっている。

このような状況下、信頼性の高い手法を用いて『源氏物語』本文を再整理し、諸本の位置関係を把握することは、自分が今、『源氏物語』諸本の中のどのような本文を用いて研究し、その本文はどのような特徴や性格を有するのかを知る上で必須の作業であろう。

海外では、カンタベリー物語プロジェクト

(Adrian C.Barbrook,Christopher J.Howe,Norman Blake,Peter Robinson ‘ The phylogeny of The Canterbury Tales ’ “NATURE ” vol.394 27 AUGUST 1998) のように、生物系統学などで実績を挙げているプログラムを援用した諸本研究が進められている。申請者もすでに『源氏物語』の巻ごとの諸本分類に着手しつつあり、論考も公表している（『源氏物語の受容と生成』武蔵野書院 2008年9月所収）。今、あらためて巻ごとの諸本分類を行う意義は計り知れない。

(2) 『源氏物語』享受資料に関する研究

『源氏物語』享受資料は『源氏物語』本文の変遷とも密接に関わる。加えて、『源氏物語』が成立時から現代に至るまでに、どのような人たちに、どのような場面で受容されて来たかを具体的に知る、重要な資料である。だが、諸作品相互の影響関係が不明であったり、諸本の再整理が必要な作品も多い上に、作成した人物周辺の文化圏および人間関係についても詳細が知られていないことが多い。拙稿「『光源氏物語抄』から『河海抄』へ」（『文学語学』186号 2007年3月）、「今川了俊筆『源氏物語』について—注記の性格と古筆家の改装—」（『国語国文』76巻8号、2007年8月）、「今川了俊筆『源氏物語』伊予切集成」（『平安文学の新研究』新

典社 2006年9月、以上3本『源氏物語の受容と生成』武蔵野書院 2008年9月再録)、「花屋玉栄と「ちやあ」—伝秀吉筆『源氏物語のおこり』から—」(『平安文学の古注釈と受容』第二集 武蔵野書院 2009年9月)で示したごとく、具体的な資料や人物に注目し、今までの情報を整理し、新資料を示すことで、中世における『源氏物語』享受の実態が具体的に明らかとなろう。

(3) 『枕草子』の本文および享受に関する研究

『枕草子』の諸本は三巻本、能因本、前田家本、堺本の四系統に分類されている。現在の注釈書のほとんどは三巻本系統の本文で行われているが、四系統の先後関係については諸説あり、他系統と異同の多い箇所も多い。また、江戸時代の注釈書はすべて能因本に拠っており、『源氏物語』古注釈書に引用される『枕草子』に堺本系統かと判断される表現も見られる。このように、どの系統の本文が『枕草子』の原典に近いか、というレベルとは異なる享受が見られる。

2. 研究の目的

本研究は、従来の研究を継続し、展開させるものである。具体的には、(1)『源氏物語』諸本に関する研究、(2)『源氏物語』享受資料に関する研究、(3)『枕草子』の本文および享受に関する研究、という3項目を柱とする。研究の目的を以下に述べる。

(1) 『源氏物語』諸本に関する研究

従来の文献学的手法に加え、海外において文献学への応用とその有効性が実証されており、凡例さえ定めてしまえば誰でも同様の結果を導き出せる手法(生物系統学で使用されるプログラムに拠る分析)を援用して、『源氏物語』における巻ごとの諸本分類および整理を試みる。巻ごとの諸本分類の試みとして、

すでに拙稿「中世における源氏物語の本文」

(『源氏物語の受容と生成』武蔵野書院 2008年9月)では夕顔巻の一部を、「『源氏物語』諸本分類試案」(同上)では空蟬巻を取り扱ったが、その研究を継続する。具体的には、定家自筆本の残る柏木巻を対象として考えている。まず、代表的諸本30本ほどの紙焼写真を収集し、校本のデータを作成、さらにプログラムによる分析を行う。今後、『源氏物語大成』に代わる『源氏物語』校本作成をも視野に入れており、柏木巻で校本を試作することを考えている。他の研究者と連絡を密にし、諸本研究に限定したプログラム開発も働きかけたい。

(2) 『源氏物語』享受資料に関する研究

室町末の近衛家の女性である慶福院花屋玉栄が作成し、もしくは書写に関わった注釈書である『花屋抄』・『玉栄集』・専修大学蔵蜂須賀家旧蔵『源氏物語のおこり』を取り上げる。『花屋抄』・『玉栄集』は女性による『源氏物語』注釈書ということで注目されるものの、諸本関係も未整理であり、それぞれ翻刻はあるものの、善本の翻刻とは言い難い。『花屋抄』・『玉栄集』の諸本を整理し、詳細が知られていない花屋玉栄の生涯を調査することで、中世における女性の古典享受の実態が明らかになろう。また専修大学蔵蜂須賀家旧蔵『源氏物語のおこり』は、花屋玉栄が「ちやあ」という女性に与えたものを豊臣秀吉が書写したものだが、その過程は興味深く(拙稿「花屋玉栄と「ちやあ」」『平安文学の古注釈と受容』第二集 2009年9月)、さらに考察を深めることで、権力者による『源氏物語』享受の新たな一面が明らかになろう。

(3) 『枕草子』の本文および享受に関する研究

『枕草子』は諸本により本文が相当異なる

が、そのうち、前田家尊経閣文庫蔵本は類纂本で、『枕草子』成立時の原型から遠いとされることもあり、書写年代がもっとも古いといわれるものの、従来ほとんどあまり顧みられてこなかった。本研究では、前田家尊経閣文庫蔵本の正確な翻刻、注釈、訳を付した注釈書を刊行することを目的とする。前田家本を詳細に検討することで、三巻本の本文のみによって研究されることが多くなってしまった『枕草子』研究に刺戟を与えることとなる。

3. 研究の方法

文献学的、書誌学的な手法のもと、古注釈の整理などを行った。また資料を博捜し、古注釈を作成した人物や享受した人物に迫った。研究の方法を以下に述べる。

平成 17～19 年度に交付された科学研究費補助金「『源氏物語』『枕草子』における本文の変遷とその受容に関する研究」（若手研究（B））で収集した資料に加えて、マイクロフィルムや紙焼写真を中心に基礎的研究資料の収集を行った。まず『花屋抄』『玉栄集』諸本の紙焼写真および『枕草子』諸本の資料を揃えた。さらに、『源氏物語』本文関連の研究および他の『源氏物語』享受資料の研究に備え、『源氏物語』本文関連の資料や研究書、享受関連の資料や研究書の収集も併行する。

研究としては、まず『花屋抄』・『玉栄集』の諸本整理を行った。『花屋抄』・『玉栄集』の諸本は未整理であるので、諸本を対校し、分類した。また、『花屋抄』は奥書の有無、『玉栄集』は奥書の位置についても考察を加えた。さらに、『源氏物語』初期の注釈書である藤原定家作『奥入』の諸本についての研究に着手した。まず、別本形態の『奥入』諸本の紙焼き写真を収集、さらに、従来の研究の問題点を整理しつつ、諸本の整理を行った。

4. 研究成果

『源氏物語』本文・注釈についての調査・資料の整備・研究を中心に行った。

研究は、本文の変遷とその受容という観点

から、手法も考察対象も多岐に渡った。平成 22 年度は、『源氏物語』の絵画化・マンガ化に注目し、ブラジルにおいて、発表・講演を行い、論文化した。平成 23 年度は、『正宗敦夫収集善本叢書』の刊行を継続するとともに、『奥入』の調査に着手、論文 2 本を公刊した。平成 24 年度は、『正宗敦夫収集善本叢書』の刊行を継続するとともに、『奥入』の調査を継続。さらに『源氏物語』古注釈の、時代における解釈の変遷を捉えた論考を執筆した。なお、『枕草子』については前田家本『枕草子』の注釈を進めたものの、刊行には至らなかった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

- ① 新美哲彦、Pinturas do Romance de Genji 『源氏物語』の絵画化、Anais - VIII Congresso Internacional de Estudos Japoneses no Brasil, X X I Encontro Nacional de Professores Universitarios de Lingua, Ltireratura e Cultura Japonesa, 2010, pp.56-60（依頼原稿）
- ② 新美哲彦、定家『奥入』の諸問題、『中世の学芸と古典注釈』竹林舎、査読無（依頼原稿）、2011、pp. 453-474
- ③ 新美哲彦、別冊『奥入』諸本の整理と特徴、『源氏物語の展望』第十輯 三弥井書店、査読無（依頼原稿）、2011、pp. 382-413
- ④ 新美哲彦、内閣文庫本系『奥入』諸本の位相と分類、『平安文学の交響』勉誠出版、査読無（依頼原稿）、2012、pp. 281-304
- ⑤ 新美哲彦、源氏物語古注釈における通過儀礼注の変遷、『『源氏物語』と儀礼』武蔵野書院、査読無（依頼原稿）、2012、pp. 245-264
- ⑥ 新美哲彦、PINTURAS DAS NARRATIVAS DE GENJI、LINGUAGENS DO ORIENTE; TERRITORIOS E FRONTEIRAS、査読無（依頼原稿）、2012、pp. 89-109

〔学会発表〕（計 4 件）

- ① 新美哲彦、『源氏物語』の絵画化 危機・挑戦・新パラダイム、第8回ブラジル日本研究国際学会・第21回全伯日本語・日本

- 文学・日本文化学会、2010年8月、ブラジル
リア大学（ブラジル）（招待講演）
- ② 新美哲彦、Paintings of the Tale of Genji、
I Encontro Internacional Linguagens do
Oriente、2010年9月、サンパウロ大学（ブ
ラジル）（招待講演）
- ③ 新美哲彦、『奥入』諸本とその問題点、第
23回古典研究会、2010年12月、福岡大
学
- ④ 新美哲彦、Paintings of the Tale of Genji
in EDO period、第9回ブラジル日本研究
国際学会・第22回全伯日本語・日本文学・
日本文化学会、2012年08月30日～2012年
08月31日、ブラジル・パラナ連邦大学

【図書】（計5件）

- ① 新美哲彦他6名、武蔵野書院、『花屋抄』
正宗敦夫収集善本叢書第1期第2巻、2010、
507頁
- ② 新美哲彦他6名、武蔵野書院、『休閒抄1』
正宗敦夫収集善本叢書第1期第3巻、2011、
696頁
- ③ 新美哲彦他6名、武蔵野書院、『休閒抄2』
正宗敦夫収集善本叢書第1期第4巻、2011、
712頁
- ④ 新美哲彦他6名、武蔵野書院、『休閒抄3』
正宗敦夫収集善本叢書第1期第5巻、2012、
660頁
- ⑤ 新美哲彦他6名、武蔵野書院、『源氏物語
中の人々 河海并花鳥余情抄出（中・下）
源氏物語忍草（冬）』正宗敦夫収集善本叢
書第1期第6巻、2012、784頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新美哲彦 (NIIMI AKIHIKO)

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教
授

研究者番号：9 0 3 9 0 4 9 2

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：